



ゆたか福祉会キャラクター
ゆたかめくんとみらいちゃん

障害者の ゆたかな **未来** をめざして



「きりえのくるま」リサイクルみなみ作業所 成田定雄さん ※紹介が10ページにあります。

CONTENTS

- ▶ シリーズ 50 周年に想う②⑥ P2～3
重度障害の我が子を抱えて
～夢をひとつずつ叶えてきた50年、職員の皆さんに感謝しながら～
- ▶ 港区に新しい作業所とホームが出来ました！ P4～5
- ▶ きょうされん大会まであと2ヶ月余 P7
岐阜支部とロックソラン・歌声交流会を行いました！

2019年8月10日 毎月1回10日発行 一部100円 (法人会員・賛助会員は会費の中に購読料を含みます)

発行 / 社会福祉法人ゆたか福祉会 〒457-0852 名古屋市南区泉楽通四丁目5番地3
TEL 052-698-7356 FAX 052-698-7358 <http://www.yutakahonbu.com/>



愛知県ファミリー・フレンドリー・マーク

連載

シリーズ 50周年に想う 26

重度重複障害の我が子を抱えて
 夢をひとつずつ叶えてきた50年、職員の方々に感謝しながら
 ゆたか福祉会 理事 ふれあい共同作業所保護者会会長 矢満田 佳代

■ 我が子の行き場を見つけない

私の子供は、難聴と知的障害と自閉症という重度重複障害というハンディを持って1969年に生まれました。今年50才になる長男です。この



子をどのように育てればいいのか悩んでいましたが、愛知県総合保健センターの職員さんに県立千種聾学校に行くように言われ、幼稚部2年間と小学部の特殊学級に6年間通いました。しかし、自閉症という障害が聾教育を学ぶのに弊害となり、ただ学校に毎日通うだけという日々でした。

この先の見通しが立たず、中学部は子どもの未来を考えて、名古屋市立南養護学校の中学部に入りました。その当時、養護学校の中では我が子の学校卒業後の毎日通う場が少ないという状況の中、保護者の皆さんがそれぞれ作業所作り運動をされていました。私も「我が子の行き場を見つけないければ…」と学校に相談したところ、「南区にはゆたか福祉会がある。とりあえずゆたか作業所に実習に行きなさい」と助言を

■ 仲間や職員の働く姿に感動

ゆたか作業所の見学

障害者の皆さんが働く場がどんな環境なのかドキドキしながら、見学に行きました。そして、職員の方が仲間の方の目線で明るく楽しく寄り添い、楽しそうに作業をしている姿に感動しました。「障害があっても、このような働く場、生活する場があるのだ」と嬉しく思い、「我が子は、このゆたか作業所に入所させたい」と決心しました。

当時、ゆたか作業所は定員増をし、リサイクルみなみ作業所の隣地へ移転することが決まっております。作業所の隣にあった小規模作業所「上浜作業所」の仲間達は、ゆたか福祉会のそれぞれの作業所に入所し、「上浜作業所」は閉鎖する事になっていました。

私も含め、我が子の卒業後の行き場を求めて集まって来た人達は、「ゆたか作業所に入所することではできない」と感じ、「それならば、新しい小規模作業所作りをしよう」と、何度も話し合いをし、資金作りも徐々に始めました。しかし、作業所作りはとても困難でした。

■ 私たちの手で作業所づくりを

難しさも体験しながら

私達は1984年に、閉鎖が決まっていた「上浜作業所」の財産をいただき、「引き継いで運営がしたい」と「上浜作業所」で働いていた職員の岡原さんに相談をしました。「私達と作業所作りに参加をして、職員になってほしい」という私の熱い思いを受け止め、岡原さんは心よく了解してくださりました。

作業所作りと運営に無知な私達は、ゆたか福祉会の職員さんにも知恵をお借りしながら、岡原さんと新しい作業所作りを始めたのです。土地は借地が見つかりましたが、建物を造るための資金はありません。私達は初めて作業所を建てる地域や関係者の皆さんに、寄附金や「障害者の働く場が必要なのです！」という訴えをするという経験をしました。励ましの言葉を言ってくくださる方や、心無い苦言を言われる方々などがあり、作業所作りの難しさを体験することになりました。

■ みなみのふれあい

共同作業所誕生！

建物の資金が集まり、平屋のプレハブを建て、1985年4月に仲間8名と職員2名の無認可



小規模作業所「みなみのふれあい共同作業所」が開所しました。

作業所運営では、仲間と親と職員の話し合いを大切に、それぞれの仲間の家庭環境を皆で理解し、助け合う事に努力をしました。作業所ができた事に感銘したお父さん方も、下駄箱や手洗い場などを手作りするなどの協力もしてくれるようになりました。

また、作業所の運営が誤った方向に進まないように、運営委員にはほしぎき保育園や中小企業家同友会、そしてゆたか福祉会の職員さんになっていただき、ゆたか福祉会のような民主的運営に努力しました。

■ ゆたか福祉会の傘下に 新たな挑戦

小規模作業所を運営する為には、名古屋市の少ない補助金だけではとても運営することが難しい状況でした。私達は、色々な地域でおこなわれるバザーに模擬店を出店したり、毎週一回、暑い夏も寒い冬も仲間と親と職員で、4つの地域の廃品回収を行いました。このような方法で必死になって運営資金を作り出し、なんとか運営をするという日々でした。

作業所を開所してからは、毎年入所希望者がありました。「どんな障害を持った人も受け止めた」という私達の理念から、仲間も増え、認可施設の話も出始めた時、地主さんの都合で、土地

を立ち退くか購入するかしなければならない状況になりました。

保護者の皆さんには、「土地を購入して、この土地で認可施設にしたい!」という強い意志がありました。ゆたか福祉会に評議員として参加していた私は、職員の岡原さんとゆたか福祉会に何度も「傘下に入れていただきたい」とお願いに行き、了承していただきました。

■ 長年の夢がかなって 分場施設から本施設へ

私達は、7年間で貯めた資金と「アイさん」という匿名の方からの多額の寄付金で、土地を購入することができました。建設資金も作り、建物を建設し、1992年4月に認可施設「ゆたか作業所分場・ふれあい共同作業所」としてスタート。これようやく念願であったゆたか福祉会の一つの事業所になれたのです。

しかし「分場施設」という制度は、「入所希望者があっても、19名までしか受け止められない」という制約がありました。心が痛み、「できるだけ早く30名定員の本施設にしなければ」と思いつつ、あつという間に10年が過ぎていきました。建物を増築し、本施設「ふれあい共同作業所」としてスタートしたのは、2002年4月のことでした。

■ 夢が叶って 職員さんの働きやすい 職場づくりと託す想い

34年前に小規模作業所を立ち上げた時から、職員の岡原さんやゆたか福祉会の職員さんの元気で勇気と思いやりの心、いつも笑顔で仲間や親に接してくださり、何よりも「仲間の事を第一に考えようか。これは、ゆたか福祉会の「仲間が主人公であり、仲間・親・職員が力を合せて民主的に作業所の発展をめざす」という理念があるからだと思います。

私も高齢になり、今年4月から夢であったグループホームに子供が入所させていただく事ができ、とても感謝しています。重度障害者の我が子の事を理解し、支援してくださいっているホームの職員さんが働きやすい職場になれるように、いつでも話し合いができるように、微力ですが私も協力したいと思います。

職員さんには障害者福祉の働く場は厳しい状況があると思いますが、仲間の働く場や生活の場、また未来のために、そしてゆたか福祉会をめざすものを理解していただき、仲間達と笑顔で実践ができるように努力していただくようお願いいたします。



2019.6

港区に新しい作業所とホームが出来ました！

念願の生活介護事業

1994年(平成6年)に開所したリサイクル港作業所は、障害者・家族の「障害があっても働き、地域で暮らしたい」という願いを実現してきました。「資源化事業を障害者の手で」と、やりがいと誇りを持ち社会に貢献してきた皆さんですが、開所20年を経過した5年前から、高齢化や障害の重度化により「新しい作業所で、ゆったりと仕事が出来たらいいね」と語られるようになりました。

このような中で、生活介護事業の準備を始め、記念すべき25周年に「みらい」が完成し、6月20日に竣工式を迎えることができました。竣工式には行政や障害者関係団体、町内



会長、消防団長、地域住民等、大勢の方に参列いただきました。利用者の方々からは「みんなとカラオケやりたい」「日帰り旅行で水族館に行きたい」「〇〇さんと一緒に仕事したい」「女性のなかまがほしい」と様々な願いが語られました。

3階い暮らさうの場

建設に向けた主な取り組みを紹介します。2016年、「先進事例を学ぼう!」と埼玉県的生活介護事業所を見学しました。8月には作業所近くにマンションの一室を借り、8名の利用者と職員2名が、週2日をリサイクル港作業所、週3日をマンションでの軽作業として活動を始めました。

港区役所からは内職仕事を、港区自立支援協議会就労部会の事業所からは、下請け仕事を紹介してもらいました。次は土地探し。港区正保町八丁目136坪の土地を購入した際には、短期入所を併設する生活介護として検討しました。名古屋市のご尽力をいただき、国庫補助を受けられることになり、1・2

階に生活介護、3階に短期入所とグループホームを建設することができました。

未来に向かって 好きな色で染めあげよう

1階の多目的室と訓練室は、折り畳みパーティーションで仕切られ、開放時は映画会やコンサート等ができる大きな部屋になります。2階作業室は、気軽に横になれる休憩場所をオーダーメイドで用意しました。

また多様な障害のある方が利用できるように、食堂の机や手洗いは、高さ調整ができるタイプにしました。そしてリサイクル港作業所が浸水した経験から、止水板を設置し、「福祉避難所」の登録を行う予定です。

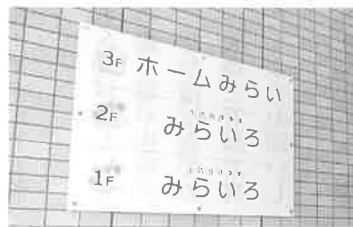
作業所とホームの名前は公募し、応募数が多かった「みらい」というフレーズを使いました。「未来をいろんな色で染めていく」という想いから、作業所名は「みらいる」、グループホームは「ホームみらい」、建物の名前は「みらい」です。

パレットの絵具で未来に色をつけていくイメージのロゴマークの車を見かけたらぜひ、声をかけて下さい。リサイクル港作業所所長 萩原千秋

7.1

「みらいる」オープン

建設当初から、自分たちが過ごす新しい施設を意識できるよう、なかま達と週に1度は、建物の外観を見に行く取り組



みをしてきました。開所初日、なかまの皆さんがどのような表情で出勤するのか、とても楽しみでした。

いつもの風景が流れて

ご家族や新しい職員の紹介後は、いつものように朝の打ち合わせが始まり、作業を開始するといつもと変わらない作業風景が見えてきました。作業が終われば「できたよ!」と笑顔で報告し、楽しそうに頑張っている姿がありました。

二日目には慣れた様子で、「おはよう」と元氣よく挨拶をして登所し、長年過ごしてきたかのように落ち着いた姿が見られました。

窓から見える 景色はいいなあ

休憩時間はゆっくり寝転ぶことが出来る畳の休憩室で、各自が好きなように過ごしています。印象的だったのは、休憩室の窓から、外の景色を覗いては嬉しそうに眺めている姿でした。周りの風景が変わり、「ここから見える景色はいいなあ」と言っているように感じました。

新たな仕事づくり

作業の柱として新たに、リサイクル港作業所で使用したエプロンや軍手、腕力バーの洗濯委託事業が始まりました。まずはポケットなどに入り込んであるゴミやガラス片を取り出し、次に洗濯中にエプロンの紐が絡まらないようにまとめます。

天気の良い日は屋上で外干し。空を見上げると気持ちの良い青空が広がり、気分転換になります。これからも様々な工程をなかまたちと一緒に考え、仕事を作っていきたいと思っています。

みらいる 山崎真由美

「ホームみらい」 スタート ～めざす3階完成～

仲間達がエレベータを降りて「ただいまー」と玄関に入ると、明るくぬくもりのあるフロアが目に入ります。廊下伝いに定住者の居室があり、リビング・ダイニングキッチンを挟んで短期入所、体験利用の部屋へ続くバリアフリーの空間が広がります。

私たちの想いをかたちにしたホームが完成し、仲間たちの願いや夢、ご家族の期待をのせて「ホームみらい」スタートしました。

安心して暮らせる ホームづくりを始めて

「ホームみらい」の建設にあたっては、体験利用、短期入所も併設する事を踏まえ、多様な障害者の方々の受け入れが出来るように、設計段階から障害のある方が利用する上で困っていた事例を出し、検討を進めてきました。

車いす使用の間取り、介護型トイレや身体状況の変化に柔軟に

対応できるお風呂も取り入れ、将来的に高齢化や障害の重度化への暮らしの対応も想定したつくりになっています。

新たな生活がスタート

体験利用の経験はあるものの、いざ入居となると仲間達やご家族の方からは心配する声や不安な声も聞かれました。少しでも安心していただけるように心がけてきましたが、それぞれが居心地よい部屋が整いはじめる頃には、私たちが信頼して将来の希望を託す気持ちを伺うこともでき、大変身が引き締まる思いでいっぱいになりました。改めてひとり一人の生活を支えていく寄り添う支援の大切さを感じています。

7月1日、職員、仲間、家族が集まり開所式を行い、新たな生活が始まりました。すでにホームの経験があり、生活の場が変わった仲間は「生活がしやすくなった」と喜んでおり、来訪する方に自慢げに部屋を案内しています。

初めてホームの生活をする仲間には、親から離れて淋しさと不安を感じながらも、ご家族の励ましと支えで自分なりの生活を始めてい

ます「ホームが楽しい」という言葉も聞くようになりました。焦らずにゆつくりと自分のやりたいことや、楽しみをみつつけてほしいと思っています。

笑顔で過ごせるような 中身作りを

建設にあたっては設計会社や建設会社はじめ、多くの業者さんの協力を賜り、私たちの想いが具体的な形になり、皆様に心より感謝申し上げます。内覧会には地域の方が大勢来てくださり、「立派な建物ですね」と言葉をかけていただきました。

今後も建物にふさわしい中身作りに取り組み、仲間の皆さんが地域の中で、毎日楽しく、笑顔で過ごせるように職員一同、一層努力していきます。是非、ホームの見学に来てください。



ゆたか生活支援事業所なかかわ

田口真理子

第4回

ゆたか福祉会 事業説明 & 相談会 開催
子どもたちの進路について意見交換

6月26日、ゆたか作業所を会場に今回で4回目となる障害のある方のご家族・関係者を対象とした「ゆたか福祉会事業説明&相談会」を開催しました。

この取り組みは、特別支援学校のご家族の皆さんや関係者を対象に、卒業後の進路と一緒に考える取り組みとして、4年前に始めた企画です。今回は父母の皆さんや先生など14名の参加がありました。

当日は、卒業後の進路について関心の高い作業所利用についての制度説明や、事業所の取り組み紹介、暮らしの場である生活施設やグループホームの説明を行いました。報告後に行われた「ゆたか作業所」の見学企画では、各フロアの仲間達の仕事や活動の様子を見てもうりました。終了後には希望者の皆さんと、ゆたか作業所の仲間たちが作っている給食を食べながら懇談会を行いました。

懇談会では、動画で作業所の取り組みの様子なども紹介しながら、質問や要望を出していただきました。卒業後の作業所利用への関心は高く、制度利用や給料、仕事内容について多くの質問がありました。また、新たな施設づくりや、グループホームの利用、実習希望など多くの要望も出されました。

ゆたか福祉会の各事業所への利用だけでなく、寄せられた皆さんの声を今後の事業運営に活かしていく為にも、このような情報発信と意見交換の場を今後も継続していきたいと思っております。



法人本部 宇川賢彦

NPO法人成年後見もやい総会開かれる
保護者連合会から16名の参加!

総会は6月22日、設立後、実質的な活動を始めて1年の総括と今後の課題について行われました。

総会に先立って名古屋第一法律事務所の稲垣宏子弁護士から「親なき後」に備えてと題して、障害者の「親なき後」の相続問題についての講演をお聞きしました。

「親なき後」の子の権利をどう守るのかとして①後見制度の利用 ②遺言制度 ③信託制度の活用について、具体的な事例を基に話され、理解を深めることができました。

総会では、成年後見もやいの組織が、正会員14団体・個人32名、賛助会員47名、後見支援員20名と前進していること。事業としては、家庭裁判所への法人後見申立支援を行ったケースはすべて、もやいが受任できたこと。一年目から後見13件、保佐3件と家庭裁判所から信頼を得ていること。法人後見業務は、毎月の後見支援員交流会で最新情報の学習や担当ケースの報告と情報共有を行い、より豊かな後見業務をめざしていると報告がありました。

また、今後増えてくる要求に応えるために、組織の維持強化に向けて「もやい運営体制検討委員会」の設置が決定されました。保護者連合会も支援と協力をしていきます。

総会は、全体で37名の参加者で成功裏に終わりました。

連合会担当役員 小松由明

きょうされん大会まであと2ヶ月余 岐阜支部とロックソールン・歌声交流会を行いました!

去る5月28日(火)、きょうされん第42回全国大会 in あいちのプレ企画として、岐阜支部との利用者交流会を行いました。今回の全国大会は「東海ブロック(岐阜・三重・静岡)全体で盛り上げていこう!」という事で、準備の様々な場面で取り組みをすすめています。

今回は「岐阜支部の仲間達と交流をしたい」という愛知利用者部会の要望で、岐阜県中津川市にある「飛翔の里」にて、大会プレ企画を行いました。「飛翔の里」さんは、表現活動としてロックソールン(注1)の踊りを、長年、取り組まれている事で有名です。今回の大会では、夕食交流会のステージで踊って頂くことになっています。

当日は「参加者がどれくらい集まるか」と心配していましたが、蓋を開けてみると53名の利用者、職員の皆さんが集合。飛翔の里の皆さんの温かい「歓迎の歌」に始まり、ロックソールンも披露してくださいました。

思っていたよりも激しく迫力ある踊りに、最初は圧倒されながらも、次第に「私も踊ってみたい!!」と身体が動き出す仲間たち。岐阜支部

の皆さんに教えて頂きながら、愛知支部の仲間達も一緒に踊ることができました。本番さながらに、曲に合わせて生き生きと飛び跳ね回る仲間たちの姿を見て、大会当日が楽しみになりました。

また大会のテーマソング「高く飛ばそう」や、「仲間たちキラキラ」「おくりもの」の歌も一緒に歌い、歌に踊りにと身体をいっぱい使った交流会でした。帰りの車中では疲れたのか、ウトウトされる方も…。

「他県の利用者と交流したい!」という声は、以前から利用者部会で挙がっていました。が、なかなか実現できずにいました。全国大会という機会を通じて、やっと仲間たちの願いが実現したとも言えます。

今回の全国大会では「あらゆる場面に、利用者の参加場面を作っていこう!」と位置づけています。きょうされんは、障害のある当事者を中心に据えて、ずっと活動をしてきました。全国大会は、きょうされん活動を最も象徴する大会とも言えます。

今後ともこうした交流の機会を岐阜支部だけで

なく、三重支部、静岡支部とも行う予定です。大会まであと2ヶ月余となりました。大会を通じて繋がりを広げ、いろいろな場に「私達の想いの種」を植えるそんな大会にしていきたいと思えます。

今治信一郎

(注1) ロックソールンは、北海道の民謡ソールン節をアップテンポにアレンジした曲を用いた踊りです。

つなげよう未来へ つなかるまいなをの輪



Aichi

きょうされん 第42回 全国大会 あいち

きょうされん大会のイメージキャラクター

新しい門出を応援

「自分も周囲の人も大事にしなごら」



川本さんは一般就労を経験したり、さわやか共同作業所（ふれあい共同作業所の前身）等で働きながら、ゆたか通勤寮・法人内のグループホームを経て、ゆたか福祉会の支援をうけつつ地域で一人暮らしを続けてきました。

平成28年に急病になり入院。一時期は歩くのもやっとの状態でしたが、介護保険事業所でのリハビリ、ふれあいでの日中活動を経て、昨年5月からトライズのB型で清掃作業に挑戦。休日には色々な所に出かけられるほど回復されました。

そんな川本さんが6月1日の外出時、JR笠寺駅付近で倒れて流血していた男性を発見し、救急車到着まで付き添い介抱をしました。男性からは救急隊を通じてお礼の言葉が届き、介抱する姿を目撃した他法人の職員からも、「本当に素晴らしい」とトライズに連絡がありました。

川本さんは情の深い女性だと感じています。トライズで過ごした1年2ヶ月

トライズ 川本初代さん

月の間、その情の深さが人への思いやりとして現れる一方、自分や周囲を傷つけてしまうこともありました。その都度、皆で話を重ね、お互いを理解しあうようになり、そして「また一般就労したい！」という思いを叶えるべく、7月から他のA型事業所での仕事に挑戦することを決意した川本さん。

交換日記には「トライズは楽しかった。仲間や職員とトラブルになつたこともあったけど、がまんできるようなつた。次のところでもまたおこつてしまふかもしれません。トライズでやったことを忘れずがんばって巣立ってきたいです」と綴られていました。自分も周囲の人も大事にしなごら暮らしていけるよう応援しています。

トライズ 小関さとこ



私のたりりん文です。川本初代
既曰私わ丁度笠寺えきでおびいさんかコンク
ーリトごころんご顔からちをながしている時
私わ11番に電話してきゆきゆたいの人かくる
まごおびりまんについてまご止まるまご
はな新ごかおおさえてあげました。私にとつ
くわとくもたいへんごした。私の仕事は雇
わトライズで(B)ごそうじをしていきます。
ゆたか本部にいつたりそのたしせつにいつた
りしてます。私わトライズを卒業してAか
たいります。そうじわたいへんたいご私わ
人のいやなことごもいつほい仕事ごやれるよ
うになりました自分目じしんも仕事してくよ
ごやてしい言もきごこれからも人かごまごて
りる人がいゑる知らんかおせずに声かけを
してあげてあげて。私わゆたかの職員が私に
こごまごにえたごまごなりました。ほうごう
ごみなごまありかごうごびいしました。これか
ごもいつごなごころんごあるかもしれません
その時わよろしくおねがいします。
おわり

今年度も

「自動車運転講習」に取り組みます

昨年度からはじめた自動車学校と提携した「安全運転講習」の取り組みを、今年度も7月から行っています。7月は2回、定員各10名で、それぞれの職場から参加してもらった形を取りました。講習内容は、安全運転に関する講義と適性検査、実際の教習車を使つての路上講習です。

ゆたか福祉会では、利用者の皆さんの送迎や利用者宅への訪問、作業所で作つた商品の納品や出張作業など、毎日たくさんの方の職員が運転業務を行って行きます。それだけに、日常的な安全運転の習慣化は、法人にとって避けて通れない重要な課題です。このような取り組みの継続で、一人ひとりの職員に安全運転の意識化が定着していくことを目標としています。

参加した職員の声

私自身、入職1年目から自動車通勤のため、運転には慣れていない気持ちでいました。講習後に講師の方から「ブレーキの踏み方に癖がある。とつさの時に踏めないのが気を付けるように」と話がありました。

慣れが知らない間に「自己流」になっていたことに気づくことができませんでした。細かなことですが、事故につながることもあります。その事故が仲間を巻き込む事故になってからは遅いです。今回の講習で自分の運転を見直す機会になりました。

ゆたか通勤寮

鷹尾 圭介(入職6年目)

教習所内外での運転の中で、

無意識の速度超過や認知の遅れがたびたびありました。また、適正検査の結果を受けて講師の方から、信号の認知や交通上における優先順位などの関連する問題が指摘されましたが、明確に答えられないこともありました。運転する機会は今後多くなってくるので、講習で学んだことを踏まえ、交通法規を守って運転していきたいです。

ゆたか生活支援事業所ながわ

住田 涼斗(入職1年目)

秋の行事一覧

9/22 (日) あかつきまつり 2019
場所：北名古屋市総合体育館

10/6 (日) 大清水福祉センターまつり
場所：大清水福祉センター

10/13 (日) 地域ふれあい広場
場所：グループホームエール

10/20 (日) 福祉村キラリンまつり
場所：福祉村

10/26 (土) 緑区区民まつり
場所：大高緑地公園

11/3 (日) 南区障害者と区民のふれあいさわやかウォーク
場所：大江川緑地

11/10 (日) 南区区民まつり
場所：日本ガイシスポーツプラザ

きょうされん大会

in あいちーなかまの輪ー

先月号でもお伝えしましたが、大会規模は3,000名を予定しており、多くのボランティアのご協力が必要になります。ぜひ、みなさんのご協力をお願いします。

ボランティア活動時間
10月25日(金) 9:30～18:00
10月26日(土) 8:30～16:00

※午前のみ、午後のみ、終日、どちらか1日でも結構です。

活動場所 名古屋国際会議場 他

活動内容 案内・誘導、会場設営、販売、受付、障害サポート、観光(26日のみ)、広報、弁当配布

その他 交通費一部補助あり 大会Tシャツ贈呈

【お問い合わせ先】

ゆたか福祉会
ライフサポートゆたか ☎090-9944-8721

表紙の作者紹介



リサイクルみなみ作業所 成田定雄さん

作品が表紙を飾ったのは、昨年11月号に続き、2回目です。この間、成田さんの切り絵が、きょうされんの「今治&泉州ブランド フェイスタオルセット」(きりえのくるま)として採用されました。切り絵のきっかけについては、お母さんがテレビで切り絵を観たことだったとお聞きしています。

作業所に入所して20年目になる成田さん。全ての工程に入って仕事ができるベテラン選手で、新しいなかまの見本にもなっています。

お家には、まだまだ素敵な作品がたくさんあるそうですが、「自分で大切にとっておきたい」とのことです。これからも仕事に興味に、たくさん好きなことができますように!



6月

- 1日(土)理事会
- 4日(火)主任研修
- 6日(木)人材確保推進委員会
- 7日(金)平和行進(南・港・豊明)
- 8日(土)平和行進(中川)
- 9日(日)平和行進(西区)
- 10日(月)事業運営推進会議
- 12日(水)新管理職研修
- 13日(木)きょうされん東海ブロック被災地研修会
(~14日)
- 15日(土)評議員会 / 臨時理事会
- 19日(水)所長会議
- 20日(木)みらい竣工式
- 21日(金)ゆたか作業所名古屋市指導監査、ライフサポートゆたか・相談どうとく実地指導
- 22日(土)NPO法人成年後見もやい総会
- 26日(水)ゆたか福祉会事業説明・相談会
- 27日(木)なるみ作業所名古屋市指導監査、事業所みどり実地指導
広報・ホームページ編集委員会
- 28日(金)研修部会議

※利用者・保護者・職員の方からも多くのご寄附をいただきました。

一柳 裕子	山田 国明	高橋 利浩	早川 久代	岡下 豊子	藤田 明美	藤田 秋雄	高崎すみ子
神谷 恵子	渡辺 正春	武藤 淳子	浅海 正義	今井 信彦	飯田 輝男	飯田 立輝	杉浦 達男
森 智明	村松 龍男	井出 由紀	今西 正次	杉浦 博	山崎 辰雄	森 ちさ	塚本 道夫
神田 清一	糠谷 彰洋	鈴木 やす	片山美恵子	戸塚やよい	浅野 清高	樋口眞箇人	近藤左千夫
			近藤産興(株)	桜軽金属工業(株)	壽工業(株)	柳進	篠原 直人

(6月21日~6月25日手続き分) 順不同敬称略

賛助会員新規加入者・更新者(芳名一覧)

広報・439号

2019年8月号(2019年8月10日発行)
定価1部100円
法人協会員・賛助会員は会費の中に購読料を含みます
発行・編集 / 社会福祉法人ゆたか福祉会
印刷 / 株式会社東海共同印刷

法人協定会費・賛助会費・寄附金など福祉会への申し込み、ご送金は

法人協定会費 = 年間1口 6,000円、
賛助会員(個人1口 3,000円、企業団体等1口 5,000円)

●銀行口座 名義はいずれも社会福祉法人ゆたか福祉会

・三菱UFJ銀行 柴田支店 普通預金 291-884
・中京銀行 鳴海支店 普通預金 150-425

●郵便振替口座 00820-8-54026 社会福祉法人ゆたか福祉会

ゆたか福祉会 事業一覧

一人ひとりが主人公。
みんなの夢が
息づく場所です！

法人本部

法人本部 ☎ 052-698-7356
ゆたか障害者福祉研究所

名古屋事業本部

ゆたか作業所(南区) ☎ 052-692-3531
みのり共同作業所(南区) ☎ 052-612-6237
リサイクルみなみ作業所(南区) ☎ 052-612-5391
トライズ(南区) ☎ 052-825-4022
ふれあい共同作業所(南区) ☎ 052-613-2479
ワークセンターフレンズ星崎(南区) ☎ 052-824-4450
なるみ作業所(緑区) ☎ 052-878-6921
ゆたか希望の家(緑区) ☎ 052-878-6912
つゆはし作業所(中川区) ☎ 052-353-3175
リサイクル港作業所(港区) ☎ 052-382-1933
みらいろ(港区) ☎ 052-382-3200

相談支援事業本部

緑区障害者基幹相談支援センター
障害者相談支援センターみどり(緑区) ☎ 052-892-6333
地域活動支援センターしかやま(緑区) ☎ 052-892-6006
ゆたか相談支援事業所どうとく(南区) ☎ 052-692-3539
相談支援事業所ゆたか通勤寮(南区) ☎ 052-611-7789
相談支援事業所ワークセンターフレンズ星崎(南区)
☎ 052-824-4450
相談支援事業所ゆたか希望の家(緑区) ☎ 052-878-8776
ゆたか相談支援事業所あおなみ(港区) ☎ 052-382-1991

尾張事業本部

あかつき共同作業所 ☎ 0568-25-0171
あかつきヘルパーステーションはなキリン
ゆたか生活支援事業所尾張
ケアホーム徳重 ☎ 0568-22-8587
ケアホーム北野 ☎ 0568-68-8844
ケアホームあかつき ☎ 0568-54-2700

福祉村事業本部

第2ゆたか希望の家 ☎ 0536-65-0370
グループハウスなぐら
デイサービスなぐら【高齢】
生活サポートセンター名倉【相談】 ☎ 0536-65-0372

地域支援事業本部

ゆたか通勤寮 ☎ 052-611-7781
ライフサポートゆたか【ヘルパー事業所】 ☎ 052-825-4404
ゆたか生活支援事業所なかがわ
つゆはし板倉ホーム ☎ 052-354-0678
上脇ホーム ☎ 052-352-3266
あおなみホーム ☎ 052-355-9339
サテライトあおなみ
ホームみらい ☎ 052-383-5580
ゆたか生活支援事業所みなみ
ホームみのり ☎ 052-612-9480
元塩ホーム ☎ 052-614-4691
サテライト元塩 I・II
粕島ホーム ☎ 052-824-9590
ひろめホーム
第二八光荘 ☎ 052-612-3986
ひいらぎホーム ☎ 052-611-6955
かさでらホーム ☎ 052-618-7171

ゆたか生活支援事業所なるお

ほしざきホーム ☎ 052-825-4359
ゆたか鳴尾寮 ☎ 052-613-3021
鳴尾ホーム ☎ 052-611-3588
第一八光荘 ☎ 052-614-4345
わかばホーム ☎ 052-614-2785
あさがおホーム ☎ 052-613-5606

ゆたか生活支援事業所みどり

大清水ケアホーム ☎ 052-876-8820
なるみホームひまわり ☎ 052-893-7575
かきつばたホーム ☎ 052-680-7777
みずひろホーム ☎ 052-715-8336

ゆたか生活支援事業所あつた

第1ホーム白鳥 ☎ 052-671-0067
第2ホーム白鳥
第3ホーム白鳥
第1ゆたかホーム太陽 ☎ 052-691-4004
第2ゆたかホーム太陽
明治ホーム

グループホーム エール ☎ 052-619-6052
エールI
エールII

名古屋高齢事業本部

ケアサポート宝南
デイサービス宝南 ☎ 052-618-0205
グループホーム宝南の家 ☎ 052-613-5081
宝南指定居宅介護支援事業所【相談】 ☎ 052-613-6055

その人らしく 働か暮らす

Vol.80

仲間



「いつも笑顔で、元気！元気！」

グループハウスなぐら 鈴木淳也さん

淳也さんは現在44歳。

1999年8月、グループハウスなぐらの開所と同時に入所し、ちょうど20年になりました。

とても働き者で、お話好きな淳也さん。日頃から職員とのやりとりが大好きです。「マッサージいっしょしてくれるのー？やっつてよー」と甘えたり、「○○くんはコーヒーを待ってるんじゃない？」と仲間を気遣ってくれます。「一段ボール、俺と一緒に運んで片づける？」などと話しかけ、職員の返しを楽しんでいます。

お手伝いにも精が出ます。職員が食堂のモップ掛けや、ハウスで洗濯物を干していると、「手伝おうか？」と言ってくれたり、フリーニングへ出す洗濯カゴ運びは、15年以上続けている毎朝の口課です。他のハウスを周ってカゴを玄関まで運び、通路を行き交う職員や仲間に、「おはよう」「いつもありがとっね」と声を

掛けられると、嬉しそうに笑顔で応えてくれます。

そんな笑顔の淳也さんですが、日中活動で空き缶つぶしの仕事をする時ばかりは別人のようです。いつものお話し好きを封印し、真剣な表情で黙々と作業する姿はとても頼もしいです。いつも笑顔で働き者の淳也さん。ドライブや外出、大好きな「黄さん」を観る時間も大切に、これからも毎日楽しく、元気に暮らしていけるよう、みんなで応援していきます。

グループハウスなぐら

齋藤純子



職員

「ボランティアの精神を今でも」

ライフサポートゆたか 伊藤朝子



私とゆたか福祉会の関わりは、ボランティアとして「太陽ホーム」

におじやました時からです。仲間と私たちボランティアで鶴舞公園などに行き、食事をしてイベントに参加したり、「コンサート」に行き歌ったり踊ったりして楽しく過ごしたことが思い出されます。

ある日、職員の方から「鳴尾寮の夕食を作ってくれないか」と言われました。料理はあまり好きではなく「大勢の食事は出来ない」と断ったのですが、「家で作っている様でいいので」と言われ、不安でいっぱいでしたが引き受ける事になりました。2002年11月のことです。

十人以上の食事は作った事がなく、献立や仕入も自分で考えながら、無我夢中で一日一日を終えていました。「長くは続かない」と思っていました。仲間と旅行に行ったり、イベントの出店で「いつもこしやおでん」などを前日にみんなで準備した時

の楽しさが、思い出となっています。

2012年9月に鳴尾寮を辞めるにあたり、ライフサポートゆたかが主催した「ヘルパー2級講座」を受けるとなりました。年齢も70才を過ぎており、体力的にも続けられるかどうか心配でしたが、受講生の皆さんとも仲良くなり、楽しい時間を過ごすことが出来ました。

そのままライフサポートでヘルパーとして働き、早6年が過ぎました。私ももつと80才。「体力的にもそろそろ限界かな」と思いながら、仕事量を調整して頑張っています。支援後の反省と楽しさに支えられて「続けられたら…」と思っています。

